

ゆめっとフリナナ

2006 ▶ 2007



愛知学泉大学コミュニティ政策学部 逢妻女川花壇づくり



愛知学泉大学岡崎キャンパス 夏祭り



岡崎城西高校 花のとう



愛知学泉短期大学幼稚教育学科 こどもまつり



愛知学泉短期大学付属幼稚園 七夕祭り 鼓笛パレード



安城学園高校
デンパーク クリスマスコンサート

- 産学連携プロジェクト ココストアと共同開発「女性向けヘルシー弁当」
愛知学泉大学 家政学部・経営学部

- 岡崎げんき館「子ども育成ゾーン」企画に参加
愛知学泉短期大学 幼稚教育学科

CONTENTS

学校法人

安城学園

座談会



学生に商品開発やマーケティングの実際を体験させたいという本学の思いと、これまでにない新たな発想を商品開発に取り入れたいというココストアの思いが重なり、スタートした今回の産学連携プロジェクト。座談会には、その最前線に携わる本学の学生、先生方、ココストアの商品開発部門の方にお集まりいただき、今回のプロジェクトの手応え、期待感等を語っていただきました。

本学とココストアとの産学連携が本格化。学生の斬新なアイデアに期待が膨らむ。

長島 まずは座談会開始にあたり、理事長から本学園としてこのプロジェクトへの期待をお聞かせ下さい。
寺部 学生たちに『学ぶ喜び』を感じてもう一件事情。それが今、学校教育においてとても大切なことだと感じております。そのため、本学ではボランティア活動やインターンシップなど様々な体験学習を積極的に行って、学生が携われる本当の意味での実務教育だと感じており、大学側としても嬉しい話だと思っております。

長島 今回コンビニ事業において重要なお弁当の商品開発を担当させていただくことに至ったわけですが、ココストアさんが産学連携をお考えになつた経緯また本学を選んでいた理由をお聞かせ下さい。

「女性向けココストアと共同開発」 ●産学連携プロジェクト



弁当

萩原 みなさんもご存じの通り、コンビニエンスストアの出店数は増加の一途をたどり、競争が激化しております。その中でココストアとしてどう差別化を図っていくべきかという点で、15年前から力を入れて店舗内製造をさらにレベルアップしていくことが二つの手ではないかと思っています。ただ最近は他社でも店内製造のテスト店を立ち上げており、今後の展開においては、相当斬新なアイデアを取り入れいかなくては立ち打ちできないと感じております。では、その全く新しい発想をどこから取り込もうかと考えた時に、愛知学泉大学さんから産学連携のお話をいただき、学生さんのお恵みを借りることで、これまでにないフレッシュなアイデアで店内製造の柱であるお弁当を開発できるのではないかと考えたわけです。

伊藤 愛知学泉大学さんと一緒にプロジェクトを行う経緯に関しては、まず地元密着、地域とともに歩まれているという点で当社と共通する部分を感じたこと、また、管理栄養士はじめとする食のスペシャリストを多数輩出されており、食に関する熱心に勉強をしている学生、専門性の高い先生方がいらっしゃるということがありました。それから今後は消費者の動向をつかむということが商品開発においても大変重要になってきます。そうした面で、マーケティングを研究されている経営学部があることも非常に心強く感じました。食・マーケティングの分野に強い愛知学泉大学さんと組ませていただくことが、我々にとって非常に有意義であると判断致しました。

長島 ところで、ココストアさんは名古屋駅にコンビニエンスストアでは初の女性専用の『Sココ』というお店を立ち上げたそうですね。また今回、女性向けのお弁当開発に着手されるという点で、若い女性を新たな顧客としてつかみたいというお考えがあるのでしょうか?

YUMETTO
DISCUSSION vol.6
愛知学泉大学
《家政学部・経営学部》

good enough playerの育成を目指して

本学園は明治45年に女子職業学校としてスタートしましたが、女子教育からスタートしたこと、職業教育からスタートしたことが本学園の教育の原点であると考えております。

まず、女子教育の方がですが、明治の末期、それも安城という片田舎において、今では想像できないくらい男尊女卑・官尊民卑の風潮が蔓延しておりました。「女が学校に行くのは、どぶに金を捨てるようなものだ」という考え方が一般的だったので。ところが、創立者の一人の寺部さんは、「人間として生まれたからには、男であろうと女であろうと無限の可能性を持っているはずだ。にもかかわらず、女性の可能性を開花させるための学校が世にはない。ならば自分が作ろう」と考えて実行したのです。

95年経った現在、本学園は幼稚園から大学まで7つの学校から成り立っております。基本的にすべて男女共学です。女子教育からスタートしたという原点は、今では教育における庶民性・先見性として受け継がれています。

本学園では、問題解決能力を持った人材となるための基礎・基本が身についた、そして、卒業したあと現代社会のさまざまな問題に積極的に挑戦する意欲を持つ「good enough player」の育成に全力投球したいと考えております。

世の中の変化のスピードは、過去に例を見ないほど早くなっています。今、日本の社会は急激に変化しているのです。こうした時代に求められるのは、問題解決能力を持つ人材です。変化に対してスピーディーかつ柔軟に対応できる人材を育めていくことが我々教育関係者に最も求められていることだと示すものであります。



学校法人 安城学園理事長
寺部 曜



く山積する現代社会の問題に立ち向かう力を養うく



愛知学泉大学就職課 サブマネージャー

愛知学泉大学経営学部4年

愛知学泉大学家政学部4年

愛知学泉大学経営学部助教授

愛知学泉大学家政学部教授

学校法人安城学園理事長 寺部 曜氏

株式会社ココストア営業本部営業企画室室長 伊藤 公一氏

株式会社ココストア営業本部統合商品部長 萩原 博文氏

長島 賢氏**小原 聰さん****鈴木 美香さん****浦上拓也氏****井関道夫氏****寺部 曜氏****伊藤 公一氏****萩原 博文氏**

「産学連携プロジェクト」とは?

産業界と大学の連携により、産業の活性化、競争力の向上を図るために、新産業の創出・即戦力となる人材育成等をめざすプロジェクト。大学と企業が共同で技術開発や商品開発を行なうなど、近年、活発に行われている。

伊藤 そうですね。若い女性は感度が高く、新しいものをどんどん求めしていく傾向が強いのではないかと感じております。ですから若い女性向けの商品を開発していくことが、一步進んだ店づくりにつながっていくのではないかと考えています。

萩原 これまでの日本のコンビニエンスストアは、どのエリアでもどの客層に対しても、つい女性向けの商品を開発していくことが、歩進んだ店づくりにつながっていくのではないかと想っています。当社においては、金太郎あめビジネスとは相容れない地域性や立地の違いを考慮した店づくりをいかで進めてきた金太郎あめビジネスだったわけですが、今後は、このまま発展してきたわけですが、今後は、このまま発展していく重要なポジションとなってくると思います。今、どこのチーンも高齢者向けの店舗を立ち上げたり、コンビニの枠を超えた商品を取り入れたりと独自性を出しています。当社におけるSココも、今後の戦略を占う非常に重要なデスト店なのです。

そうした中、お弁当は、味付や食材において地域性の違いが一番顕著に出てくる商品ではないかと思います。当社の強みである店内製造であれば、地元の食材を使い、味付にも変化を持たせるという地域との対応も可能ですから、今後も店内製造を強化しながら、差別化を図っていきたいと考えています。

伊藤 そうですね。若い女性は感度が高く、新しいものをどんどん求めていく傾向が強いのではないかと感じております。とはいっても、働きかけています。とはいっても、働きかけています。若い女性は、我々が想像する以上にある部分の知識は豊富であり、その部分を上手く引き出しても面白い意見を聞かせてください。学生たちにも熱心に取り組んでおり、また、やつておれば、いいアドバイスができるのではありませんか。今回のプロジェクトに参加した動機をお話しいただけますか?

浦上 経営学部の学生は、アルバイトを熱心にやつており、その経験を通じて、お弁当に対する面白い意見を聞かせてください。学生は、我々が想像する以上にある部分の知識は豊富であり、その部分を上手く引き出しても面白い意見を聞かせてください。

長島 では、今回プロジェクトに関わっている学生お二人にこのプロジェクトに参加した動機をお話しいただけますか?

小原 もともと食品業界に関心があり、学生の立場で企業の商品開発に携れる、また、学生お二人にこのプロジェクトに参加した動機をお話しいただけますか?

鈴木 もともと食品業界に関心があり、学生の立場で企業の商品開発に携れる、また、学生お二人にこのプロジェクトに参加した動機をお話しいただけますか?

長島 では、今回プロジェクトに関わっている学生お二人にこのプロジェクトに参加した動機をお話しいただけますか?

小原 とても面白い意見を聞かせてください。

鈴木 とても面白い意見を聞かせてください。

長島 では、今回プロジェクトに関わっている学生お二人にこのプロジェクトに参加した動機をお話しいただけますか?

愛知学泉短期大学 《幼児教育学科》

岡崎げんき館

平成20年3月

OPEN!!

保健衛生ゾーン

- 保健所事務室
- 相談室
- 健診室・保健指導室
- X線室 他

健康づくりゾーン

- 健康増進プール
- ヘルスチェックルーム
- リラクゼーションルーム
- レストラン・ショップ 他

元気の素、見つけた

市民交流ゾーン

- 情報ライブラリー
- 市民ギャラリー
- 市民活動室・和室
- 調理実習室 他

子ども育成ゾーン

- 子育て支援室
- プレイルーム
- おもちゃ図書館
- 子ども相談室 他

この度、愛知学泉短期大学幼児教育学科は特別目的会社(SPC)である「岡崎げんき館マネジメント株式会社」を構成する事業者として、岡崎げんき館で行う子育て支援事業を株式会社タスク・フォースさんとともに担うことになりました。幼児教育者育成において長年の実績

地域の幼児教育者育成を担う本学に大きな期待が寄せられています。

この度、愛知学泉短期大学幼児教育学科は特別目的会社(SPC)である「岡崎げんき館マネジメント株式会社」を構成する事業者として、岡崎げんき館で行う子育て支援事業を株式会社タスク・フォースさんとともに担うことになりました。幼児教育者育成において長年の実績

企画に参加

岡崎げんき館「子ども育成ゾーン」

みんなの元気を応援する「岡崎げんき館」が平成20年3月、市立岡崎病院跡地にオープンします(予定)。「岡崎げんき館」は4つのゾーン(左スケーム参照)からなり、愛知学泉短期大学幼児教育学科が「子ども育成ゾーン」の企画・運営に参画します。

学生たちが子どもと触れあう実践の場となるようなプログラムも計画中

管理ができ、豊かな表現力と人間性を備えた生活人の育成を目指しています。

PICKUP 本学とともに事業を担う株式会社タスク・フォースさんにお話を伺いました。

弊社は平成元年に設立。現在、託児施設「都市型保育園ボボラ」を、全国に36園運営しております。弊社では、様々な経験を通して自ら学習していく力を養うことを保育理念としており、全ての基礎となる「体づくり」に力を入れております。もちろん、音楽や工作等の教育プログラムも充実させ、親子でご参加いただく行事も各種開催しております。岡崎げんき館の「子育て支援事業」に取り組むにあたり、弊社が「保育サービス専門会社」として培ってきた実績と、愛知学泉短大的専門性を活かし、より良い保育サービスをご提供できると考へております。また、学生の方がボランティアとして関わることで、質の高い幼児教育者の育成に貢献できると期待しております。

本事業が再来年4月からスタートするにあたり、事業の詳細については今後岡崎市をはじめ、関係各位と協議を重ねてまいります。来春、幼児教育学科が岡崎キャンパスに移転することもあり、その保育者育成の教育資源を岡崎市の子育て支援事業に少しでも役立てることができます。



商品検討会の様子



長島 夏休みの市場調査を踏まえ、9月15日には第2回目の商品検討会が行われたそうですね。どのようなコンセプトを発表したのかお聞かせ下さい。

鈴木 私たちのチームでは、夏休みの市場調査で見えてきたことを踏まえ、安いものと高いものの二つの価格帯を設けること、おかずの揚げ物をヘルシーに調理すること、おかずの品目数と色目で栄養をアピールすることなどをコンセプトとして提案しました。また、容器の形やパッケージング、販売演出について言及しているチームもありました。

長島 学生の皆さんからのコンセプトを打ち出したとのことですが…。

伊藤 第2回目の商品検討会で上がってきた各チームの提案には共通項が多く、それに沿った形で統一コンセプトを作ろうと、「真・ヘルシー大革命」というキーワードを打ち出し、取り組んでいたことにしました。10月に行う第3回目の商品検討会においては、このキーワードをもとに、肉をメインにすること、おかげとご飯の比率、少量多品種のおかず、彩りの表現などの条件等も考慮してもらい、「一種類の価格帯のお弁当」を学生さん達に用意していただこうことになつております。

来年3月の発売を成功させ、2年目、3年目とプロジェクトを持続させていきたい。

長島 3月の発売に向け、まだ道半ばというところですが、最後に皆様から今後の抱負について聞かせていただければと思います。

鈴木 経営学部の市場調査の結果を聞いて、女性向けのお弁当には開発の余地が大きいと感じ、ますますやる気が出づきました。「真・ヘルシー大革命」というキーワードに沿つた、今までにないものを作りたいですね。

小原 正直、講義よりも勉強になつていて、感じています(笑)。この経験を自分の糧にしていきたいです。

理事長 今回のプロジェクトでは、食に携わる者にとって今後ますます重要な「食育」というテーマについて、実践的な学びの場を設けていただき、本当に感謝しております。学生だけではなく、先生方、ココストアさんにとって、今回活動を通じて学ぶことが多いという話を聞くと、産学連携は皆にとっての「学びの生まれる場」になっていると感じています。実学を学びの中心とする本学において、このプロジェクトを契機として今後も様々な機会が創出されることを願っております。(2006年9月30日 安城学園法人本部にて)



現在開発中の弁当は、来年3月、全国のココストア「ココ・デ・クック」(九州を除く)で一斉発売予定!!

*「ココ・デ・クック」とは、店内製造を持つココストア店舗のことです。

井関 まだ試行錯誤の状態ですが、この取り組みを一回で終わらせず、今後も継続していくことが大切だと考えています。

浦上 経営学部はマーケティングという観点からこのプロジェクトに参加していますが、消費者のニーズをもつと深く収集し、われわれの参画意義を高めていきたいと思っています。

萩原 今回のお弁当デビュについて、業界初を全面的に打ち出したいと考えています。容器やパッケージ、ネーミングについても学生さんから意見を伺い、斬新なものを作つていただきたいと思っています。最近の市場動向を見ると、ヘルシーな商品に消費者の関心も非常に高まっています。ですから、その点に関して当社の品揃えが欠落していくことは企業姿勢に疑問を持たれても仕方がないと思っております。今後はヘルシーに留意した商品開発は当然のことだと位置づけて、このカタゴリーを育て、最終的にはココストアのお弁当商品の柱に持つべきだと思います。そのためにも今回の開発をしてかり成功させたいと思っています。

伊藤 まずは今、動いているものをきちんと発展をしつかり成功させたいと思っています。形にしたいと思います。そして1年で終わるのではなく、2年、3年と統け、商品開発から一歩踏み込んで教育という面でもココストアから何か発信していきたいと考えています。学生の皆さん熱心な姿を見ると、このプロジェクトでは、必ずいい結果が残せると確信しています。

豊田キャンパスでは、教員と就職課が一丸となって学生の就職サポートを行っています。教員においては就職活動に対する意識づけ、情報提供等の徹底、また就職課においては、県下で最初に取得した厚生労働省が推奨する若年者就職基礎能力支援事業『YESプログラム』による学生たちへの就職指導を行っています。また、今年度からキャリア形成のための科目を開講(右頁の「キャリア開発フィールド」)。

1・2年次には必修科目『夢設計Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』を、3年次には選択科目『進路設計Ⅰ・Ⅱ』をカリキュラムに導入し、目標設定から就職先の選定、就職対策まで段階的にキャリア形成を行えるようになりました。

さらに、本学ではゼミ担当教員や就職課員が学生一人ひとりに対して個性を大切にした個別指導を行っています。一人の学生に対して個別指導の回数は平均7~8回。仕事を通じて個別的な情報提供し、一人ひとりにとてベストな就職先と一緒にになって考えてきます。

その他にも企業の方やOB・OGを招いての就職相談会などを開催し、さまざまな角度から学生の仕事に対する意識を高めていき、一人ひとりがよりよい進路を見出せるようサポートしています。

就職相談会

地元優良企業を中心に、毎回約70社にご参加いただく就職相談会を学内でも開催しています。平成17年度実績では、約40名の学生が参加企業から内定を獲得しました。



学生の就職活動をサポートする支援プログラム

YES-プログラム

(Youth Employability Support Program)
厚生労働省が推奨する若年者就職基礎能力支援事業
2004年から始まった国の新しい就職支援制度。企業が若者に求めている「就職基礎能力(コミュニケーション能力、基礎学力、ビジネスマナーなど)」をYES-プログラムの講座を受講することによって身につけることができます。YES-プログラム修了者は、厚生労働省の公的資格を取得でき、就職活動時のアピール材料にすることができます。愛知学泉大学では、全国で最も早くこのプログラムを受講できる体制を整えました。

OB・OG就職相談会

「なんでも気軽に相談できる」雰囲気が好評なOB・OGによる就職相談会を学内でも開催。学生に最も近い存在で、就職活動のポイントなどを親身になってアドバイスしてくれます。

教員・職員一丸となつて就職を支援します!



就職課 サブマネージャー 長島 賢

平成17年度 県内文系学部 就職率第1位達成!!

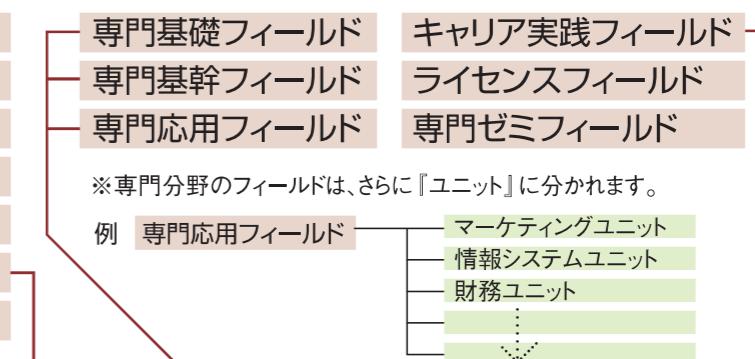
Evolving New Business Styles 【経営学部 経営学科】

『フィールド・ユニット制』は「～になりたい」自分を見つけ、夢実現を果たす仕組み。7つの一般分野、6つの専門分野から希望進路に合わせて選択します。

◆一般分野

- 教養講座フィールド
- 国際フィールド
- 語学フィールド
- 健康とスポーツフィールド
- 教養体験フィールド
- キャリア開発フィールド
- 基礎ゼミフィールド

◆専門分野



※専門分野のフィールドは、さらに『ユニット』に分かれます。

例 専門応用フィールド



特長1

体験型科目を数多く導入
ex. 伝統文化(茶道・華道)
歴史探訪
デスクトップ・ミュージック

特長2

「夢づくり」と「夢実現」のための特別プログラム。それぞれにふさわしい就職にまで結び付けます

特長3

経営の専門知識を効果的に学ぶ段階的なプログラム。

特長4

具体例を豊富に盛り込んだケーススタディによる実践的な学習

◎平成18年度から高校教諭1種免許(公民、商業)の取得も可能となりました。

Evolving New Communities 【コミュニティ政策学部 コミュニティ政策学科】

身近な生活から地域社会、そしてインターネット社会まで、さまざまな問題を発見し、解決するための政策を学び、実践する人材を育成します。

4つのコースと公務員受験対策コースのダブルコース制!

教室だけでなく現場に出て、さまざまな地域の諸問題を学びます。

地方行政コース

地域社会を理解した公務員・企業人をめざす

環境・福祉・スポーツ政策コース

市民社会を豊かにするコーディネーターをめざす

地域・国際ボランティアコース

国内外のボランティアのリーダーをめざす

地域マネジメントコース

広い視野から新たな活動・組織をつくる人材をめざす

公務員受験対策コース

4つのコースで学ぶ専門性を生かし、具体的なビジョンと実践力を持った公務員をめざす

1年次から4年次まで、学部教員がサポート

専門予備校による受験対策講座の学内開講や各種模擬試験の実施とともに、個別相談、面接・小論文対策など、学部教員が学生を支えています。

◎平成18年度から高校教諭1種免許(公民)の取得も可能となりました。

平成18年度から新教育体制スタート!

常に時代に先駆けた教育を行うために、今年度から新教育体制をスタートさせました。社会の変化に臨機応変に対応できる人材育成をめざし、自治体との共働によるまちづくりの実践、地元企業に協力して、インナーシップやボランティアなどの、大学内だけに留まらない多様な学びの場と機会を提供するカリキュラムとなっています。

就職活動を通じて、気づかされることがいっぱいありました。

就職活動の仕方がわからない「自分が何をやりたいのかがわからない」と言つて、就職活動に踏み出せないという人がいるかと思いますが、まずは学内で行われる企業展に参加して下さい。そこから就職活動の第一歩が始まると思います。その後は、気になる企業があれば個別の企業説明会に参加してみてみることです。とりあえずは、一歩を踏み出しがんばります。私の経験からいって、就職活動に真面目に取り組んだ方が、色々な事を考え、そして気づき、成長できると思います。

学校側のサポートを上手く利用すること。それが、就職への近道です。

就職活動を通して、いつ見つけることができると思います。

就職に関していえば、学校側のサポートは万全です。自分がその気になれば、本当にいい就職先を見つけることができると思

早々に内定を得た2人に話を伺いました

就職内定者

INTERVIEW



経営学部4年
杉浦 愛子さん
(リコー中部株式会社内定)

社会人となるための資質向上をはかるプログラム

経営情報特講「社長が語る私の経営」

地元企業を中心に、毎回様々な業界から第一線で活躍する経営人を招いて、最新のビジネスモデルや各業界の流れ、経営哲学等を語っていただきます。

■今年招いた講師(一部)

トヨタ車体株式会社
専務取締役 森田 寿一氏
富士スピードウェイ株式会社
社長 加藤 裕明氏
森永製菓株式会社
元常務 池上 豊彦氏
株式会社豊田自動織機
元副社長(現相談役) 中山 尚三氏

インターンシップ(経営学部)

企業などで一定期間、研修生として働く制度です。業務の流れや組織運営への理解を深め、社会人としてのマナーや心構えを養うことを目的としています。「働くとはどういうことか?」「目標とする仕事につくために、自分は何を身につけらるいのか?」など、実体験を通して学んでいきます。

資格対策講座

学生のスキルアップや資格取得をバックアップするため、各種の資格講座を開講しています。学内教授陣や外部専門校講師によるきめ細やかな指導で、自らのスキルアップや就職のために必要な資格取得をめざすことができます。



コミュニケーション政策学部4年
山口 佑也くん
(日本ルツボ株式会社内定)

愛知学泉大学豊田キャンパスは、このたび、愛知県下にある文系学部の中で就職率第1位を達成しました。豊田キャンパスの就職支援についてご紹介します。

【愛知学泉短期大学 生活デザイン総合学科】

NDKファッショコンテストに10名が入選!

9月11日、大阪フェスティバルホールにおいて、第74回NDKファッショコンテストが開催されました。当日、併催された第9回ヤングダイナミックシーンコンテストに10名が入選、第63回NDKファッショコンテストに2名が入選し、そのうち瀧本幸子さんが優秀賞を受賞しました。

優秀賞 受賞

瀧本幸子さん(平成17年度卒業生)



コンテストの作品づくりでは、山本先生をはじめ多くの方に支えていただき、本当に感謝しています。まさか、自分の作品が優秀賞をいただけるとは思つてもみなかつたので、とても驚いています。この受賞は自分にとって大きな自信となりました。これからも、もっと勉強して様々なことに挑戦していきたいと思います。

「カ・ワ・イ・イ」衣装を身にまといファッショショーに挑戦!

6月21日に開催されたNDC中部フレッシュコンテストデザイン画審査で14名が入選。それぞれの「カ・ワ・イ・イ」衣装を身にまといファッショショーに挑戦しました。



岡崎市民美術展でグランプリ他多数受賞

第57回岡崎市民美術展のデザイン部門・工芸部門において、グランプリや岡崎教育委員会賞など多数の入選を果たしました。入選した学生に受賞の喜びなどを伺いました。

デザイン部門:
岡崎教育委員会賞 受賞
中村麻美さん(2年)



デザイン部門:
岡崎市長賞(グランプリ)受賞
大須賀彩さん(2年)



数々のコンクールで入賞を
果たしています！

【愛知学泉短期大学 幼児教育学科】

新5号館

平成19年3月完成予定



6階 一般教室、多目的ホール、
5階 小児保健実習室、美術室、
4階 造形教室
3階 新図書館
2階
1階 350席の食堂

この建物とは別に、音楽教育の充実を図るために音楽棟を建てます。ここでは、音の心配をすることなく、音楽教育や実技の練習ができる環境になっています。音楽棟2階は350人が収容できる音楽ホールを予定し、大学オーケストラの練習場、コンサート会場、さらに地域の人々に開放して使っていただけるように計画しています。

本学科は、昭和53年に安城市桜井町の桜井キャンパスで教育を開始して以来、こじごとにまつりや地域の幼稚園の先生方を対象にした公開講座などの活動により、地域になくてはならない存在としての評価をいたいただきました。一方、桜井学舎は老朽化が進み、建て替えによる教育環境の整備が必要であると検討してきました。ところが、同キャンパスは市街化調整区域となつてゐるため調整事業が終わるまでは校舎等の建築が許可されないと

問題があり、調整事業が終わるまでは待つか、あるいは移転するか等々で検討を重ねた結果、岡崎キャンパスへ移転することとしました。せっかく根を張った安城を離ることは、残念ではありますが、教育環境の確保と新たな発展の視点に立ち、このような判断となりました。

これで短期大学全ての学科が岡崎に集結し、より豊かな教育環境を実現できると期待しています。また地域貢献のセンターとしての役割も担っていきたいと考えています。

岡崎キャンパスに
短大・幼児教育学科が移転
(来年3月完成に向け新校舎建築が順調に進む)

【愛知学泉大学家政学部】



新たな地域貢献を目指して
今後も魅力ある講座を提供します

家政学部教授 土平 健雄

当セミナーは、学校法人安城学園創立90周年記念事業の一環として始まりました。周知のことく、明治45年、寺部三蔵・だい夫妻は女性の地位向上を立派の主旨として、安城裁縫女学校を開設し、女子教育とりわけ教員養成に力を入れ、多くの人材を送り出してきました。その伝統は今日に至るまで脈々と受け継がれていましたが、昭和62年に本学は全国で初めて家政学部を男女共学とし、女子のみならず男子の家庭科教員も教育界に輩出しています。さらに近年は、まちづくりはひとつづり」を学園のスローガンに掲げ、愛知学泉大学は「地域とともに歩む大学」を目指してその教育を進めています。当セミナーは、このような90年の伝統を踏まえ、新たな地域貢献を目指して発足したものです。おかげさまでこれまでに5回の講座を開催することができ、なかには2度3度と足を運んでくださる地域の先生方や卒業生もあり、誠にありがとうございます。向学心旺盛な家庭科教員の皆様のお役に立つ魅力的な講座を、今後も提供していくことを考えています。

◆午後の部／実習

Aコース「フェルトの創作」

講師：杉浦 愛子(本学家政学部講師)

フェルトの成り立ちを学んだ上で、羊毛に石鹼水・熱・圧力を加えてフェルトを作り、リバーシブルの帽子を製作。

Bコース「フリー・レースの創作」

講師：長谷川えり子(本学短大助教授)

リボンや原毛などの素材とレースを自由に組み合わせ、「織り」や「編み」では表現しにくい透けた感じや軽さを生かした作品を創作。

Cコース「ステンドグラス・キルト」

講師：高橋 知子(本学家政学部教授)

花や鳥などの図柄を、色とりどりの布ピースを組み合わせることによって、ステンドグラスのように表現した作品を創作。



◆これまでの家庭科教員支援セミナー

開催日	講演・シンポジウム	実習
平成14年8月20日(火)	「『生きる力』を育てる家庭科教育」 乗本秀樹(三重大学教育学部教授)	「授業を効果的に見せるパワーポイントの実習」 井関道夫(愛知学泉大学家政学部教授) 「住生活教育におけるコンピュータの活用」 丹羽誠次郎(愛知学泉大学家政学部助教授)
平成15年8月 9日(土)	「コピー食品とは」 井関道夫(愛知学泉大学家政学部教授)	「人工いくらをつくろう」 相原英孝(愛知学泉大学家政学部助教授)
平成16年8月 7日(土)	「建築家の視点から住教育を考える」 三井富雄(建築家/MOMOアーキテクツ)	「住宅模型を作ろう」 丹羽誠次郎(愛知学泉大学家政学部助教授)
平成17年8月 5日(金)	「食品に含まれる亜硝酸・硝酸イオンについて考える」 井関道夫(愛知学泉大学家政学部教授)	「野菜の硝酸量を色で見よう」 森山三千江(愛知学泉大学家政学部助教授)

第5回 家庭科教員支援セミナー ファブリック・アート～布を創る・布で遊ぶ～

主催／愛知学泉大学 家政学部家政学専攻
平成18年8月3日 会場／愛知学泉大学 岡崎学舎

愛知学泉大学では、日々の研究成果を地域社会に還元するため、各学部の特色を活かした各種公開講座を開催しています。去る8月3日には、現職家庭科教員・研究者を対象とした家庭科教員支援セミナーを開催。約75名の研究者小・中・高等学校家庭科教員の方々が参加し、熱心に講演に取り組みました。

